

2021 年度春季大会（麗澤大学）の記録

麗澤大学 佐藤政則

麗澤大学 陳 玉雄

日本金融学会 2021 年度春季大会は、5 月 29 日（土）、30 日（日）の両日に開催された。新型コロナが世界中で猛威を振るう中、本学会大会の 2 回目のオンライン開催となった。この中、特別講演、会員総会、共通論題のほか、専門部会による 2 つのパネルセッション、3 つの特別セッション、9 つの自由論題報告セッション（うち 2 つは英語）が行われ、活発な議論が交わされた。

1 日目の 29 日午前は、金融史パネルと 2 つの特別セッションの他、自由論題の 3 セッション、計 13 報告がなされた。金融史パネル（座長：早稲田大学矢後和彦氏）では、「経常収支不均衡の認識論：1960-70 年代における対外均衡と対内均衡の歴史的位相」のテーマのもと、経常収支・国際収支の「不均衡」が当事国にどのように認識され、いかなる政策的対応に導いたのか、その成否はどのように評価されるかなどについて、5 名のパネリストが当時の一次資料を基に再検討し、研究成果を発表した。特別セッション 1（座長：中央大学奥山英司氏）は「2020 年度の〈個人投資家の証券投資に関する意識調査〉の結果報告」、特別セッション 2（座長：一橋大学安田行宏氏）は「金融システムレポートについての報告」が提供された。自由論題は、企業金融（座長：神戸大学内田浩史氏）、為替・通貨（座長：大阪経済大学福本幸男氏）、English session（座長：一橋大学塩路悦朗氏）の 3 セッション 8 報告がなされた。

1 日目の午後は、中央銀行パネルと自由論題 3 セッションの後、特別講演と会員総会が行われた。中央銀行パネル（座長：大和総研中曾宏氏）で、「〈新常態〉、コロナ危機下の中央銀行——直面する課題と政策の国際比較」のテーマのもと、コロナ危機下での米国 FRB、イングランド銀行、欧州中央銀行の政策対応を比較し、今後の展望を視野に入れつつ日本への含意を提示した。自由論題は、地域金融（座長：近畿大学安孫子勇一氏）、金融史（座長：早稲田大学矢後和彦氏）、English session（上智大学竹田陽介氏）の 3 セッション 8 報告がなされた。特別講演（座長：関西大学地主敏樹氏）で、「金融庁職員の知られざる 10 の活動」と題して、金融庁長官氷見野良三氏に、激変する内外環境下での金融庁の新たな取り組みについてご講演をいただいた。

2 日目の 30 日の午前は、特別セッション 3 と自由論題の 3 セッション、計 12 報告がなされた。特別セッション 3（座長：慶応義塾大学白塚重典氏）は、エネルギー需給構造、グリーンファイナンスを巡る欧米の動向及び、政府系金融機関によるグリーンローンに関する実証研究の 3 本構成で、脱炭素社会に向けた金融面の役割を追究した。事業者、投資家の立場から見た課題が示されるとともに、制度設計に関する実証研究の成果が報告された。自由論題は、金融政策・国際金融（座長：法政大学田村晶子氏）、金融仲介機関（座長：埼玉大

学長田健氏)、金融資本市場の分析(座長:青山学院大学亀坂安紀子氏)の3セッション9報告がなされた。

2日目の午後の共通論題は、「中銀デジタル通貨(CBDC)のインパクト」をテーマとし、各国で実証実験や実用化が急速に進みつつある中銀デジタル通貨について、これまでの経緯、海外における実践例、日本の現状と今後の方向性を含め、制度と実務の両面から多角的な議論が行われた。座長関根敏隆氏(一橋大学)・副座長高橋亘氏(大阪経済大学)のもとで、中島真志氏(麗澤大学)による「中銀デジタル通貨を巡る国際的な動向といくつかの論点」、関根栄一氏(野村資本市場研究所、北京事務所)による「デジタル人民元の中国国内での公開実験と国際展開に向けた現状と課題」、宮沢和正氏(ソラミツ株式会社、東京工業大学)による「カンボジア中銀デジタル通貨と日本への提言」、神山一成氏(日本銀行)による「中央銀行デジタル通貨に関する日本銀行の取り組みについて」の4報告がなされた。

大会は、準備委員会佐藤政則委員長が中心となって、準備が進められたが、最終的にオンライン開催となった。この中、プログラム委員会(委員長:早稲田大学鎮目雅人氏)を中心に様々な工夫が施された。大会の前では、大会専用サイトで報告論文や当日資料が共有され、報告・質疑応答の円滑な進行に資した。当日では、ネットの不具合等による進行の中断を防ぐため、セッションごとに副座長が設けられた。また、オンライン開催の特性を生かし、イギリスと中国からそれぞれ1名のパネリストの参加を得た。開催後にもZoomによるアフターセッションやブレイクアウトルーム機能を使った懇親会の場が設けられた。多様な形態の事後会合で、参加者は緊張感を解し、時間の制限を気にせず自由にコメントし合う場面が多く見られた。大会後の1週間、アーカイブ会場が設けられ、当日参加できなかったセッションの事後的な視聴が可能となった。

最後に、プログラム委員と座長・副座長をお引き受けくださった諸先生に、そして何よりもコロナ危機下で大会を作っていただいた報告者、講演者の皆様に、改めて篤く感謝申し上げます。